



News Letter



バレンタイン寄付キャンペーン 寄付総額509,197円!
ご協力ありがとうございました

2月に実施いたしましたクラウドファンディングにおいて、皆さまの温かいご支援と心強い応援により、無事に目標金額を達成することができました。このプロジェクトに寄せていただいた多大なるご協力に、心より深く感謝申し上げます。皆さまから託された想いを受け止め、「無料でつながる外国人医療相談窓口の確立」のために、さっそく動きました!



皆様と、気軽に
つながれるよう
になりました

2026年4月1日から

お問い合わせ窓口が変わります!

通話料無料!

今までの問い合わせ窓口をフリーダイヤルに変更します
電話代を気にせずゆっくりご相談ください

新電話番号

0120-339-266

LINEでも電話OK!



「LINE通話」を導入します。AMDA国際医療情報センターのアカウントを友だち登録してもらい、トーク画面のメニューからワンタップで発信可能です

より使いやすくなる新窓口を、ぜひご利用ください!

AMDA 国際医療情報センター 電話医療相談

相談料はかかりません

日本国内の相談に応じます
祝日、12/29~1/3は休み

電話 **0120-339-266**
対応時間 10:00~16:00

月	火	水	木	金
にほんご	にほんご	にほんご	にほんご	にほんご
英語	英語	英語	英語	英語
韓国語	中国語	スペイン語	中国語	ポルトガル語
フィリピン語	タイ語	ベトナム語 (要確認)		ベトナム語 (要確認)

AMDA 国際医療情報センター 遠隔医療通訳

通訳料はかかりません

電話またはWEB会議システムを
使用します
祝日、12/29~1/3は休み

電話 **0120-339-266**
対応時間 10:00~15:00

月	火	水	木	金
英語	英語	英語	英語	英語
韓国語	中国語	スペイン語	中国語	ポルトガル語
フィリピン語	タイ語	ベトナム語 (要相談)		ベトナム語 (要相談)

ベトナム語は対応日が毎月変更します。WEBサイトで最新の対応カレンダーをご確認ください→



言葉が違くと、心の治療は受けられないのか

——非日本語話者のメンタルヘルスと日本の医療の壁——

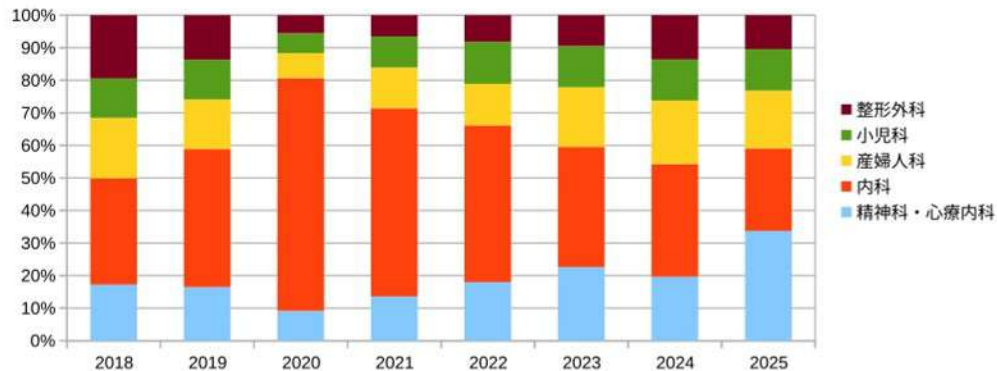
メンタルヘルス分野における非日本語話者の受診には、言葉や制度、家族の言語ギャップなど複数の壁があります

日本で暮らす非日本語話者が医療機関を受診する際、言葉の壁は大きな課題となります。特に精神科や心療内科といったメンタルヘルスの分野では、その影響はより深刻であり、医療機関につなぐまでには、いくつもの関門があります。

当センターにおける相談の傾向

まずは当センターに寄せられる相談内容の傾向を見てみます。相談内容を診療科別に分類したとき、内科、産婦人科、小児科、整形外科、精神科・心療内科が上位5科目となるのですが、この5科目に限ってその割合を年次推移が分かるグラフにしました。年々精神科・心療内科の割合が増加していることが分かります。

グラフ1) 相談内容を診療科別にみた年次推移・5大診療科 (2018-2025年度)



グラフ2) 2025年度 通訳診療科



さらに、昨年2025年度に当センターが行った遠隔医療通訳の診療科別の内訳は次のようになっています。

およそ4割が精神科・心療内科の通訳になっています(グラフ1、2ともに2025年度は2026年2月までのデータ)。

次に、センターで相談者のために医療機関を探すときに経験する、非日本語話者にとっての精神科受診の壁についてお話しします。

「言葉が通じないと診療は難しい」——精神科医療の現場の戸惑い——

精神科の診療では、患者の感じている不安やストレス、生活状況などを丁寧に聞き取ることが重要です。そのため医療機関の中には、

「言葉が通じないと十分な診療ができないのではないかと」

「医療通訳を介しての診療は難しい」と

といった理由から、非日本語話者患者の受診を受け入れてもらうことが難しいことをセンターでは経験しています。医療機関にとっても、誤解が生じる可能性や診療時間の制約など、さまざまな不安があるでしょう。その結果、言葉の壁がある非日本語話者は、精神的な不調があっても受診先が見つからないという状況に置かれることがあります。

通訳が入ることで受診につながるケース ——患者から依頼できる通訳サービス——

一方で、当センターが遠隔医療通訳として診療の支援をすることで、受診を受け入れてもらった事例もあります。特に地方では、精神科に限らず非日本語話者の診療を受入れていただける医療機関そのものが限られていることがあります。そのようななか、患者からの通訳依頼も受け付けている当センターの存在があることで、診療につながったケースがあります。医療機関と患者のあいだに通訳が入ることで、症状や生活状況を丁寧に共有することができ、診療が成立しています。このような経験から、言葉の壁がある患者のメンタルヘルスクエアには、医療通訳が重要な役割を果たす可能性があると感じています。

もうひとつの課題 —外国にルーツを持つ家庭の言葉のギャップ—

非日本語話者のメンタルヘルスの課題には、もうひとつ大きなものがあります。それは、外国にルーツを持つ家庭の中で生じる「言葉のギャップ」です。例えば、親が海外から来日し、子どもが日本で育った家庭では、子どもは日本語を流暢に話せる一方で、親は日本語を十分に理解できないことがあります。このような家庭では、子どもは日本語で診察を受けることができても、親が治療内容を理解できないという状況が生まれます。

当センターでも、子どもの精神科受診に際して、医師の説明を親に伝えるために医療通訳が入るケースを経験しています。家族の中で言葉が分かれていく外国にルーツを持つ家庭では、子どもが学校や社会生活を通じて日本語を身につける一方で、親は母語を中心に生活する 경우가少なくありません。その結果、

子どもは日本語が中心、親は母語が中心

という言語の差が生まれることがあります。このような状況では、思春期の子どもの悩みや心の問題について、家族の中で十分に共有できないことがあります。言葉の違いは、親子のコミュニケーションの難しさにもつながり、外国にルーツを持つ家庭特有の課題となることがあります。

非日本語話者の心のケアを支えるために当センターができること

外国にルーツを持つ人々が日本で安心して暮らすためには、身体のみならず、心のケアに適切につながる必要不可欠なこともあります。しかし、言葉や制度、そして家庭内の言語ギャップといった複数の要因が、そのアクセスを難しくしています。

当センターでは、多言語医療相談や遠隔医療通訳を通じて、こうした壁を一つひとつ乗り越え、必要な医療につながる支援を行っています。非日本語話者と医療をつなぐ「橋渡し」として、これからも現場の課題に向き合いながら取り組みを続けていきます。



小谷のニューヨーク通信 No.2

言葉・文化の壁を越えたケア —看護研究から見える健康格差

【はじめに：ニューヨークの「日常」にある境界線】

世界一の多様性を誇る都市、ニューヨーク。地下鉄に乗れば、一車両の中で十数カ国の言語が飛び交うのは日常の光景です。しかし、この活気ある多様性の裏側には、医療現場における深刻な「沈黙の壁」が存在しています。私は現在、ここニューヨークで、言語や文化の障壁を持つ心不全患者さんが直面する「医療格差」について研究しています。この複雑な課題をIntrapersonal, Interpersonal, System/Structural レベルで見えています。

「個人(Intrapersonal)レベル」とは、患者さん自身の病気に対する受け止め方や「自分で管理できる」という自信(自己効力感)、あるいは私たち医療者が無意識に抱いてしまう偏見といった、内面的な領域をさします。「対人的(Interpersonal)レベル」とは、患者さんと看護師の信頼関係といった、やりとりを通して生まれる相互作用をさします。「システム(Systemic/Structural)レベル」とは、病院の受け入れ体制や地域のサポート資源といった、個人の努力だけでは変えられない社会構造のあり方をさします。

こうした多層的な視点で見えてくる発見や学びは、日本にいらっしゃるAMDのスタッフの皆様、そして活動を支援くださるご支援者の皆様が大切にされている精神にも、深く通じるものがあると感じています。

【心不全管理と言語的文化的障壁を持つ患者】

私の研究対象である「心不全」は、診断を受けてからの「セルフケア(自己管理)」が予後を左右する慢性疾患です。毎日の体重測定、厳格な塩分制限、複雑な服薬管理。これらは、単に知識があるだけでは達成できません。その人の「生活習慣」そのものを再構築する作業だからです。また、心不全は「増悪と寛解の繰り返し」を特徴とします。体調が安定している時期には、自覚症状が乏しいため、減塩や服薬管理といったセルフケアの優先度が低下しやすく、日常生活の忙しさが優先されがちです。しかしその間にも、水面下では病状が進行しているという難しさがあります。／

ここで、日本で日本語を第一言語としない外国人の方が直面する困難を想像してみてください。病院から渡される「減塩指導パンフレット」に、自分の国の主食や伝統的な調味料のことが一言も触れられていなかったらどうでしょうか？「安静に」と言われても、家族を養うために肉体的労働を休めない環境にいたらどうでしょうか？言葉が通じない不安から、症状が悪化しても受診をためらってしまったらどうでしょうか？受診を試み電話または窓口に行っても、言語が通じなかったら？またはそこで断られてしまったらどうしたらいいのでしょうか？

医療現場では、こうした「言語的・文化的な不一致」が、結果として再入院率の高さや生存率の低下という、数字として可視化される「健康格差」として現れることが報告されています。しかし、この「言語的・文化的な不一致」が患者アウトカムに与える影響は単純な因果関係ではなく、複数の要因が複雑に相互作用した結果として生じるものです。さらに、その背景には各国の医療制度の成り立ちや、歴史的に形成されてきたヘルスケアのあり方が深く関係していることを、日々実感しています。

【看護の力に着目して】

私は看護の力は言語的・文化的障壁を越える力があると考えており、看護師はこの健康格差を埋めるために必要不可欠な存在だと考えています。そのため、私の研究のもう一つの柱は「看護労働環境」です。どれだけ優れた通訳システムがあっても、現場の看護師が過密な業務に追われ、患者さんの背景を理解するための心理的余裕や時間的資源を確保できなければ、Interpersonal, Intrapersonal, System/Structural レベルといった多層的な要因が関与する健康格差の解消にはつながりません。

また、患者さんへのケアは、単なる情報の翻訳では成立しません。特に心不全などの慢性疾患においては、患者さんのセルフケア能力の獲得や生活習慣の再構築を支援することが求められます。そのため看護師には、患者さんの食文化、価値観、信念なども踏まえたケアを計画・提供する役割が期待されています。看護師が専門職としてその能力を最大限に発揮できる環境を整えることが重要です。つまり、患者さんの健康を守るために、まずは看護師の労働環境の改善が必要です。

【結びの言葉】

AMDの活動および自分がどのように貢献できるか、ニューヨークで勉学に励む中で考えております。

私 たち の 活 動

<https://www.amdamedicalcenter.com/>

電話医療相談

病院・クリニックへ行きたい
外国語が使える病院・クリニックはどこ？
私たちが病院・クリニックを探します

電話医療通訳

あなたが病院・クリニックへ行くとき、私たちが通訳します

- ◇始めに予約をしてください
- ◇病院・クリニックへ行くときは、使いたい言葉と同じ曜日にしてください
- ◇電話通訳を使っているか、病院・クリニックに聞いてください
- ◇私たちは病院の人と患者（あなた）の間の通訳をします

多言語相談電話・医療通訳 平日10時-16時

①フリーダイヤル

0120-339-266

②LINECALL（友達登録をお願いします）



英語・韓国語・中国語・スペイン語・フィリピン語・タイ語・ベトナム語・ポルトガル語

フリーダイヤルでは、三者通話機能を使用して、医療機関への予約支援も行っています。ご利用ください！

2026年4月より
フリーダイヤルと
LINECALLを導入!!
通話料無料で相談が
可能になりました!!

医療機関からの相談、通訳予約

090-3359-8324

平日9時-16時

※2026年3月より電話番号が変わりました

ご 寄 付 の お 願 い

AMDA国際医療情報センターは、皆様からの会費と寄付により運営されています
温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします

なお、当センターの運営はAMDA(本部:岡山県)とは別会計で、当センター独自の会員制度となっております

オンラインでの
手続きがおすすめ!

会費・寄付の振込先①

クラファンサイトやソフトバンクのつながる募金を利用して、オンラインでお手続きできます。単発・継続など支援の形は自由に選択可能です。

1. Syncable(シンカブル)
クレカ払いOK 領収書発行OK
2. つながる募金
クレカ払い、paypay払い
ソフトバンクポイントで寄付
月々の利用料金とまとめて寄付 OK
領収書発行OK

寄付総合案内



会費・寄付の振込先② 郵便振替が利用できます

郵便振替 00180-2-16503
加入者名 AMDA国際医療情報センター

銀行振込をご希望の場合は090-3359-8324にご連絡下さい
(平日9時-16時)

賛助会員 年会費 年度は4月1日から3月31日まで

団体 20,000円 学生 2,000円
個人 6,000円 中学生以下 1,000円

- 団体・個人会員は半年ずつの分納が可能です
- 賛助会員は何口でも加入いただけます
- 初年度時、10月以降に加入の場合は以下の通りです
団体10,000円 個人 1,500円

小林国際クリニック 脳神経内科・消化器科・外科・小児科
TEL 046-263-1380

平日 午前9:15-12:00/午後2:00-5:00
土曜 午前9:15-午後1:00 休診日 水・日・祝

〒242-0005
神奈川県大和市西鶴間3-5-6-110 小田急江ノ島線 鶴間駅 4分
<https://5884-international-clinic.com/>

S N S 更 新 中



<https://www.facebook.com/AMDAIMIC>



<https://www.instagram.com/amdamedical/>



<https://x.com/amdaimic>

事務局長 活動報告

2025年

11月1日-2日 第40回日本国際保健医療学術学会(ポスター発表)

12月16日 夜間・休日ワンストップ窓口・希少言語に対応した遠隔通訳サービス <令和7年度>第3回説明会

2026年

1月 21日 駐日英国大使館新年会

1月 26日 東京都医療機関における外国人患者への対応支援研修(講義動画収録)

2月 慶応ノンプロフィットリーダーズ・プログラム(パイロットプログラム) 修了

3月 出入国在留管理庁 外国人支援コーディネーター研修 修了